



♪ジョイコン NEWS ♪

第10号 2015年2月18日

大倉山ジョイフルコンサート（略称「ジョイコン」）は3年目に入りました。

年間6回の公演（奇数月第3日曜日）を予定し、これまで以上に、ジョイコン初の楽器や奏者にご登場いただき、その魅力をご紹介していく予定です。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」（第10号）をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆第14回コンサート
- 【2】 今後の予定（先取り情報）
 - ◆第15回コンサート
 - ◆第16回コンサート
- 【3】 チェロとカザルス
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■ ■ 第14回コンサート ■ ■

◇ 2015年3月15日（日曜日）14:00開演（13:30受付開始）

◇ 出演：堀沙也香（チェロ）、武田麻里江（ピアノ）

◇ 賛助出演：堀了介（チェロ）

◇ プログラム（予定）

- ◆ ショパン：序奏と華麗なるポロネーズ
- ◆ サン＝サーンス：白鳥
- ◆ フォーレ：夢のあとに
- ◆ ピアソラ：アヴェ・マリア
- ◆ エルガー：愛の挨拶（デュオ）
- ◆ シューベルト：アヴェ・マリア（デュオ）
- ◆ マルティヌー：ロッシェニの主題による変奏曲 他

第14回ジョイフルコンサートは

『チェロの調べ～名曲をソロとデュオで～』と題して、お届けします。

今回は皆様お馴染みの曲、聴き応えのある大曲、更にお父様とのデュオもあり、盛りだくさんな楽しいプログラムです。

☆ ショパン「序奏と華麗なるポロネーズ」

ピアノの詩人と呼ばれたショパンがチェロとピアノのために作った室内楽曲です。ポロネーズの部分はパトロンのアントニ・ヘンリフ・ラジヴィウ親子のために作られました。

さすがショパンらしくとても華やかなピアノのイントロで始まり、それからチェロのゆったりとした落ち着いたメロディーが重なっていきます。そこからどんどん華麗に展開していきます。

ところどころショパンのピアノ協奏曲の第一番に似ていると感じられる部分がありました。皆様はどう思われるのでしょうか？

ショパンについては昨年7月の菊地裕介さんのエチュード全曲演奏のご案内の際、メルマガ第6号で書いています。ジョイコンのホームページからメルマガ

のバックナンバーがご覧頂けますので、お時間あったら是非お読みいただければ嬉しいです。バックナンバーはこちら（→）
<http://www.ohkurayama-joycon.com/> [メールマガジン♪ジョイコンNEWS♪]

☆ピアソラ「アヴェ・マリア」

ピアソラと聞くとリベルタンゴを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか？

コマージュ、フィギュアスケートなどいろいろな所で耳にしたいと思います。そのイメージで聴くとこのアヴェ・マリアは全く違います。ゆったりと穏やかで本当にほっとさせてくれる癒し系の曲です。日頃のイライラやストレスを是非忘れて和んで頂きたいです。ただピアソラの中ではこの曲もタンゴらしいのです。専門的に分析するとそうなのかもしれません。もしわかる方がいらしたら教えていただきたいです。連絡先はこちら（→）info@ohkurayama-joycon.com

今回シューベルトの「アヴェ・マリア」も演奏予定ですので、是非聴き比べていただければと思います。

* ピアソラとタンゴ

ピアソラは1921年にアルゼンチンに生まれました。4歳から15歳まで家族でニューヨークに暮し、その時期にジャズに親しんだそうです。幼い頃に父親からバンドネオンをプレゼントされ、ブロードウェイのラジオ局でフォルクローレを録音し、バンドネオンを演奏するようになりました。

アルゼンチンに再び移住後、父のレストランでハーモニカ、バンドネオンを演奏し、その後ラジオでタンゴを聴き、タンゴに目覚めたそうです。楽団に入団し、バンドネオン奏者としても活躍し、その後自分の楽団を率いてオーケストラタンゴの演奏活動を行っていきます。ただ当時1950年代は大衆音楽としてロックが始まった頃で、古典的なタンゴはだんだん人気が無れつつあり、タンゴの限界を感じてクラシック音楽の作曲を勉強するためにフランスに留学します。

その頃ピアソラは「モーツァルトのように簡素で美しい音楽を書かなければならない。」と思い込んでいたそうです。しかしパリで師事したナディア・ブーランジェに「ここに本物のピアソラがおり、あなたは決してそれを手放してはならない。」と言われ、タンゴにこそ自分の道があるとそこで決意を新たにしました。その頃作られたのが、アヴェ・マリアです。

1年の留学を終えて、1955年にアルゼンチンに帰国後、ピアソラは従来の踊りの伴奏のタンゴにジャズやクラシック音楽の技法を取り入れて音楽として聴けるものにしようと新しいタンゴを作り出そうとしていきます。しかしタンゴの改革への挑戦は「踊れないタンゴ」と言われ、大変なバッシングを受けてしまいます。家族まで脅され、命の危険にさらされるようなこともあったそうです。そのためニューヨークに逃げるように渡り、ナイトクラブで働き、歌手の伴奏、ジャズ・タンゴという新しい音楽を作り出していきます。それから徐々にニューヨークで評価されるようになりました。

その後1960年アルゼンチンに戻ることができたピアソラはバンドネオン、エレキギター、ヴァイオリン、ピアノ、コントラバスを中心としていくつかの楽団を編成し、解体を繰り返して演奏活動を行っていきます。でも1990年欧州の演奏旅行の最中に脳溢血で倒れ、1992年にブエノスアイレスで亡くなりました。

日本にも4回来日し、かなりたくさんライブやコンサートを行っていたそうです。いらした方いらっしゃるでしょうか？
私は当時全く知らず残念です。

☆マルティヌー「ロッシーニの主題による変奏曲」

ロッシーニ作曲のオペラ「エジプトのモーゼ」の1つのテーマを元に作曲された曲です。

「エジプトのモーゼ」は聖書の中の話でモーゼが虐げられたユダヤの民を連れて、エジプトを脱出する物語を描いています。最初ピアノのイントロがドラマチックに始まりますが、その後チェロの軽快なリズムとなって、様々な展開があり、また最初の軽快なリズムで終わります。多くの苦難と苦悩を乗り越えて、エジプトを脱出した喜びを最後表現しているのでしょうか？

ただその後の歴史や現在の情勢を考えるととても複雑な気分になりました。世界の平和を祈ります。

* ブフスラフ・マルティヌー

1890年にチェコスロバキアに生まれた作曲家ですが、幼い頃はヴァイオリンの名手でもあったそうです。本格的に作曲を始め、1919年にカンタータ「チェコ狂詩曲」でスメタナ賞を受賞、パリでの演奏旅行で印象派の音楽を知り、傾倒していきます。

1923年奨学金を得てパリに留学し、ドビュッシーのように作曲したいという夢をもって本格的に勉強します。それがだんだんと古典的なものや故郷の民謡などを題材に作曲するようになっていきます。

その頃政治的にはナチス・ドイツが台頭してきた時期でした。ドイツ人が多く住んでいたチェコのズデーデン地方をドイツ領にしようとする動きがあって、戦争を避けられると考えた英仏の介入で、1938年のミュンヘン協定で一方的にドイツに移譲されてしまいます。ハンガリーともポーランドとも領土問題をチェコは抱えていて、それをドイツが利用し、チェコの国内を混乱させようとした。

マルティヌーはナチス・ドイツのブラックリストに載ってしまい、それから逃れるために1941年アメリカに渡ります。

アメリカ在住中は最も創作活動が充実していた時期で、6曲の交響曲のうち5曲が作られています。

1945年にチェコが独立後は母国に帰りたという気持ちはあったそうです。しかしバルコニーから転落して怪我をし、1948年にチェコスロバキアの政変で共産党政権となり、芸術に理解のある政治家も亡くなったことから帰国は断念したそうです。

晩年はヨーロッパでホテルを転々として暮らし、1959年にスイスで亡くなりました。死後1979年に遺灰は祖国に戻されたそうです。

メルマガを担当するようになって、国の歴史によって作風が変わっていったり、実際自由を求めて他国に渡る音楽家が多くいることを知りました。屈辱的な思いや数々の困難の中で多くの偉大な作品が残されてきたことを思います。

いろいろ思いは巡りますが、今回も素晴らしいチェロとピアノの演奏をお楽しみください。(A. N.)

★★★満席となりました★★★

大変申し訳ありません。今回は早々と満席になってしまいました。

【2】今後の予定(先取り情報)～「予約申し込み」は受付ておりません

■■第15回コンサート■■

◇2015年5月17日(日曜日)14:00開演(13:30受付開始)

◇出演:高田匡隆(ピアノ)

☆諸外国で研鑽を積まれた名手、高田匡隆さんが選んだ
幻想曲の数々をお楽しみください。
◆予約開始日：2015年3月16日（月曜日）

■■第16回コンサート■■

◇2015年7月19日（日曜日）14:00開演（13:30受付開始）
◇出演：HABANERO SAX

☆若い男性によるサクソ四重奏団です。

【3】チェロとカザルス

チェロはヴァイオリンの何倍も大きく全長75～76cmあります。
ヴァイオリンの超絶技巧がキンキンして苦手と言われる方もチェロの音色や響きには魅力を感じられることでしょう。
チェロは人間の声に最も近い楽器といわれているのです。

そんなチェロもチェリストのパブロ・カザルスが近代チェロの奏法を開発するまでは低音域をカバーする伴奏楽器でした。

カザルスは13歳の時（1890年）に港のそばの古い楽譜屋でぼろぼろの一束の楽譜を偶然に発見します。これがそれまで闇に埋もれていたバッハの『無伴奏チェロ組曲（チェロ独奏のための六つの組曲）』でした。この曲は、ピアニストにとってのベートーヴェン「ピアノソナタ全集」、ヴァイオリニストにとってのバッハ「無伴奏ヴァイオリンソナタ&パルティータ」のようなもので、今ではこの組曲を弾き切ることを大きな目標とするチェリストも多いといえます。

「無伴奏チェロ組曲」の発見によってチェロは奏法も変わり、ソロ楽器としての地位を確立していきます。今ではチェロはソロ楽器として、またオーケストラではヴァイオリンやヴィオラとコントラバスをつなぐ役割を、弦楽四重奏などの室内楽では最も低いパートを受け持ちながら全体を見渡すポジションというように、チェロが担う仕事量はふえてきました。

カザルスといえば、アメリカの国連のコンサートで『私の故郷のカタロニアの鳥は「ピース！ピース！（平和）」と鳴くのです』と語って、カタロニア民謡の「鳥の歌」を演奏したエピソードも有名です。（のん）

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（1月18日公演）
鎌田美穂子（箏・三絃・二十五絃箏）、大堀由美子（ヴァイオリン）による『箏とヴァイオリンによる新春コンサート』は如何でしたか？

ジョイコン初の和楽器のコンサートでしたが、大勢のお客様にご来場頂き大好評でした。

アンケートの自由記入欄（ご感想など）には、
『箏の演奏を生で聴くのは初めてでした。ヴァイオリンとのデュオももちろん初めて、音楽の世界が広がりました』
『へちま、櫻川、とてもとても聴きごたえのある面白い、深い演奏でした。編曲アレンジも良かったです！』
など数多くのメッセージが寄せられました。

★第1回～第10回の「アンケート」集計結果のご紹介。（第4回目）
今回は「コンサートの内容は如何でしたか？」の質問です。

- ①大変良かった；59.3% ②良かった；23.0% ③普通；1.4%
④あまり良くなかった；0.2% ⑤良くなかった；0%⑥無記入；16.1%

“採点が甘めになる”ことを考慮しても、プラス評価を頂けているものと思います。今後のご満足頂けるよう、主催者として努めて参ります。

【編集後記】

先日、花の便りに誘われて熱海の早咲き桜と梅園を見物してきました。

ここ大倉山にも、記念館の奥に大倉山公園梅林という素敵なスポットがあり、2月中旬から3月初旬が見ごろになるようです。

毎年「大倉山観梅会」（今年は2/28、3/1）が開催され、野点や舞踊などが行われます。散歩を兼ね、お出かけするのは如何でしょうか。

※このメールマガジンは、
大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込み

次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <http://www.ohkurayama-joycon.com/>
